

概 況

高梁市の概況

1	高梁市消防の沿革	1 ~ 1 1
2	消防本部・署庁舎	1 2
3	世帯数・人口・面積	1 2
4	消防力の整備指針に関する基準数と現有数	1 3
5	現有消防力の比較	1 3



1 高梁市消防の沿革

- 昭和29年 近接1町8カ村が合併し、高梁市消防団が結成され、9分団が設けられた。
- 昭和30年 近接中井村が編入され、高梁市消防団中井分団となる。(1団、10分団、団員2,000名)
消防ポンプ自動車1台購入。(小型動力ポンプ38台、腕用ポンプ29台)
- 昭和35年 消防団員定数1,780名とする。
- 昭和36年 消防ポンプ自動車増強配置。(団員定数1,700名)
- 昭和37年 市街地消防水利増強のため公設消火栓設置。(61ヶ所)
(団員定数1,500名)
- 昭和40年 高梁市消防団常備部を設け、消防体制を強化した。
(消防団員定数1,200名)
新見市、昭和町、北房町、有漢町、賀陽町、成羽町と消防相互応援協定締結。
- 昭和41年 政令指定により消防本部・署設置、消防職員定数18名とし実員16名で発足。(消防長 助役兼務)
常備部を廃止した。(団員定数1,000名)
市長部局から1名出向 実員17名
赤バイ(ホンダ300cc)消防署配置。(高梁ライオンズクラブ 寄贈)
- 昭和42年 職員2名退職・2名採用・市長部局から1名出向 実員18名
消防ポンプ自動車(A2級)消防署配置。(日本損害保険協会寄贈)
- 昭和43年 消防職員定数21名とする。
職員3名採用 実員21名
- 昭和44年 消防職員定数30名とする。
職員1名退職・4名採用 実員24名
小型動力ポンプ積載車消防署配置。
- 昭和45年 職員2名退職・4名採用 実員26名
救急自動車消防署配置。(日本自動車工業会寄贈)
消防団機動化のため小型動力ポンプ積載車10台購入配置。(消防団)
消防団の部の統合を行い54部を31部にする。(団員定数780名)

- 昭和46年 消防本部、消防署庁舎完成。
兼任職員3名を解き、7名採用 実員30名
小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
消防指令車(トヨタ クラウン 2,000cc) 消防署配置。
無線局開局。(基地局・陸上移動局)
- 昭和47年 市長部局へ1名出向・1名採用・(消防長 市長兼務) 実員30名
総社市と消防相互応援協定締結。
広報車消防署配置。(高梁危険物安全協会寄贈)
小型動力ポンプ積載車3台配置。(消防団)
化学消防ポンプ自動車(薬剤500リットル、水2,000リットル積載) 消防署配置。
集中豪雨による高梁川氾濫に際し、地区住民の避難誘導及び復旧作業に従事した。
- 昭和48年 市長部局へ1名出向 実員29名
小型動力ポンプ4台更新。(消防団)
小型動力ポンプ積載車3台配置。(消防団)
消防ポンプ自動車(A2級)更新、消防署配置。
- 昭和49年 小型動力ポンプ7台更新。(消防団)
小型動力ポンプ積載車消防署配置。
小型動力ポンプ積載車3台配置。(消防団)
職員1名退職 実員28名
- 昭和50年 職員1名採用 実員29名
消防ポンプ自動車消防署配置。(日本損害保険協会寄贈)
屈折はしご付消防ポンプ自動車(15メートル級) 消防署配置。
落合分団第2部を高梁分団第4部に編入した。
消防団員定数750名とする。(1団、10分団、28部)
- 昭和51年 救急自動車(2B型) 消防署配置、2台となる。(県共済農協連寄贈)
消防訓練塔建設。
- 昭和52年 小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
小型動力ポンプ(B-3級) 3台更新。(消防団)
- 昭和53年 職員1名採用 実員30名

- 昭和54年 4月1日広域救急業務受託開始(有漢町・賀陽町・成羽町・川上町・備中町)消防職員定数37名とする。
職員1名退職・2名採用・(消防長 市長兼務を解く) 実員31名
救急自動車(2B型)消防署配置、3台となる。(日本損害保険協会寄贈)
救急指令装置(NEC B型)設置。
松原町陣山 無線中継基地局開局。
固定局2局、基地局2局、陸上移動局(車載8・携帯6)
- 昭和55年 職員6名採用 実員37名
指令広報車消防署配置。(日本消防協会寄贈)
- 昭和56年 救急自動車(2B型)更新、消防署配置。(県共済農協連寄贈)
救助工作車(照明灯付)消防署配置。
- 昭和58年 職員1名退職 実員36名
小型動力ポンプ3台更新。(消防団)
- 昭和59年 消防事務の事務委託に関する規約制定、上房郡有漢町、賀陽町、川上郡成羽町、川上町及び備中町の消防事務を受諾した。
消防職員定数65名とする。
消防職員24名採用 実員60名
消防庁舎増築。(救急車庫、食堂、署事務室)
小型動力ポンプ積載車消防署配置、2台となる。
10月1日広域消防業務を開始。
- 昭和60年 職員2名退職・5名採用・市長部局から1名出向 実員64名
小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
消防ポンプ自動車(CD-I型、A2級)消防署配置。
消防団員定数700名とする。(1団、10分団、28部)
阿新広域事務組合(新見地区消防本部)、真庭広域連合消防本部、井原地区消防組合消防本部と消防相互応援協定締結。
査察車(ニッサン ブルーバード 1,600cc)消防署配置。
- 昭和61年 指令車(ニッサン ローレル 1,800cc)消防署配置。
圧縮空気製造施設(高圧空気充填所)設置。
小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
赤バイ(ヤマハ 250cc)消防署配置。(高梁ライオンズクラブ寄贈)
中井分団第2部を第1部に編入、高倉分団第3部を第1部に編入し、1団、10分団、26部となる。
救急自動車(2B型)更新、消防署配置。(県共済農協連寄贈)
高梁市消防団ラッパ隊結成。

- 昭和62年 職員1名採用 実員65名
 小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
 小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
 第34回岡山県消防操法訓練大会を桔梗緑地グラウンドで開催。
- 昭和63年 消防本部、機構改革による課制の導入。
 小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
 小型動力ポンプ積載車4台更新配置。(消防団)
 玉川分団第2部を第1部に編入、1団、10分団、25部となる。
 消防ポンプ自動車(BD-I型、A1級)更新、消防署配置。
 (日本損害保険協会寄贈)
 化学消防ポンプ自動車(II型)更新、消防署配置。
 指令広報車消防署配置。(日本消防協会寄贈)
- 平成 元年 職員2名退職・1名採用・市長部局から1名出向 実員65名
 防火広報車消防署配置。(日本防火協会寄贈)
 小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
 小型動力ポンプ積載車4台更新配置。(消防団)
- 平成 2年 職員4名退職・市長部局から1名出向 実員62名
 救急自動車(2B型)更新、消防署配置。(山ノ内製薬株式会社寄贈)
 小型動力ポンプ積載車4台更新配置。(消防団)
 小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
 岡山県下消防相互応援協定締結。
- 平成 3年 小型動力ポンプ積載車更新、消防署配置。
 小型動力ポンプ積載車3台更新、1台増強配置。(消防団)
 小型動力ポンプ(B-3級)1台更新、1台増強。(消防団)
- 平成 4年 職員1名採用・市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向 実員63名
 消防ポンプ自動車(CD-I型、A1級)更新、消防署配置。
 小型動力ポンプ積載車3台更新、1台増強配置。(消防団)
 小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
- 平成 5年 救急自動車(2B型)更新、消防署配置。(日本消防協会寄贈)
 小型動力ポンプ積載車3台更新配置。(消防団)
 小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)

- 平成 6年 消防団員定数650名とする。(1団、10分団、25部)
小型動力ポンプ積載車2台更新配置。(消防団)
小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
岡山県防災行政通信ネットワーク(衛星系)運用開始。
- 平成 7年 「阪神・淡路大震災」に消防隊・救助隊として43日間、延べ人員114名の職員が出動した。
職員2名退職・2名採用・市長部局から1名出向 実員64名
はしご付消防ポンプ自動車(15メートル級)更新、消防署配置。
機構改革の一部改正により、消防本部警防課を予防課と名称変更した。
消防庁舎北側敷地拡張1,034.1㎡となる。
緊急消防援助隊発足。
福山地区消防組合消防局と消防相互応援協定締結。
小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
救急自動車(2B型)更新、消防署配置。(県共済農協連寄贈)
- 平成 8年 4月1日消防無線施設更新。(消防本部固定局・基地局、陣山固定局・基地局)
通信指令室増築、機械室新設。
消防緊急通信指令施設更新、I型を導入。
水槽車(3.8トン)を購入配置。
指令1号車(マツダ ファミリア 1,500cc)更新、消防署配置。
小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
高梁圏域救急医療対策協議会設立。
- 平成 9年 岡山自動車道集団事故災害訓練実施。
岡山市消防局・総社市消防本部・真庭消防組合消防本部と岡山自動車道消防相互応援協定締結。
救急救命士資格取得、第1号誕生。
- 平成10年 職員1名退職・(消防長 助役兼務) 実員63名
中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練参加(岡山市操車場跡地)
広報1号車(ニッサン 1,500cc)更新、消防署配置。
救助工作車II型(日野8,000cc)更新、消防署配置。
岡山県災害救急医療情報システム運用開始。
小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
救急救命士資格取得、2名(計3名)
日本消防協会 表彰旗 受章(平成10年3月7日)

- 平成11年 職員1名退職・2名採用 実員64名
指令2号車（いすゞ ビックホーン 3,000cc）更新、消防署配置。
（日本消防協会寄贈）
救急救命士資格取得、1名（計4名）
小型動力ポンプ（B-3級）2台更新。（消防団）
高規格救急自動車（トヨタ 3,400cc）消防署配置、運用開始。
資機材搬送車（いすゞ 3,150cc）消防署配置。
消防庁長官 竿頭綬 受章（平成11年3月5日）
消防庁舎耐震補強工事及び救急滅菌室増設工事（平成11年3月30日完成）
- 平成12年 職員2名退職・2名採用・（消防長 助役兼務を解く） 実員64名
救急救命士資格取得、1名（計5名）
消防ポンプ自動車（CD-I型、A2級）更新、消防署配置。
小型動力ポンプ積載車2台更新配置。（消防団）
小型動力ポンプ積載車更新、消防署配置。
小型動力ポンプ（B-3級）1台更新、消防署配置。
- 平成13年 救急救命士資格取得、1名（計6名）
消防無線周波数取得に伴い携帯無線機（1W）3台配備（消防団）
小型動力ポンプ（B-3級）2台更新（消防団）
小型動力ポンプ（B-3級）1台返納（消防団）
消防庁舎高圧受変電設備及び冷房設備工事
- 平成14年 高梁市消防団 日本消防協会 竿頭綬 受章（平成14年2月8日）
救急救命士資格取得、1名（計7名）
小型動力ポンプ（B-3級）2台更新（消防団）
携帯無線機（1W）2台配備（消防団）
- 平成15年 高規格救急自動車（トヨタ 3,400cc）消防署配置（2Bを更新）
高規格救急車 計2台
広報2号車（トヨタ ハイエース 2,000cc）更新、消防署配置。
救急救命士資格取得、1名（計8名）
小型動力ポンプ（B-3級）2台更新（消防団）
- 平成16年 職員4名退職・4名採用 実員64名
10月1日 市町合併により「新高梁市」誕生。（旧高梁市・旧有漢町・
旧成羽町・旧川上町・旧備中町）
機構改革の一部改正により、消防本部予防課を警防課と名称変更した。
高梁市消防団は1団・5方面隊・24分団・69部、団員1,591名
（条例定数1,610名）となる。
兵庫県豊岡市水害に伴い緊急消防援助隊岡山県隊として2隊10名派遣
する。

指揮車 更新 有漢方面隊本部
小型動力ポンプ付積載車 更新 有漢方面隊 有漢中央分団第2部
消防ポンプ自動車 更新 成羽方面隊 自動車分団第2部
救急救命士資格取得、1名（計9名）

平成17年 職員1名退職・1名採用 実員64名
小型動力ポンプ積載車（積載1号車）更新 消防署配備
消防緊急通信指令施設 携帯電話119番受信改修工事
自動体外式除細動器（AED）2相性 2台 購入（救急車へ配備）

平成18年 消防ポンプ自動車（消防3号車）更新 消防署配備
乗用車 更新 消防署配備
救急救命士資格取得、1名（計10名）
認定救急救命士（気管挿管）取得 3名
積載車 更新 成羽方面隊 成羽分団第5部
自動車分団器庫 移設 川上方面隊

平成19年 職員3名退職・3名採用 実員64名
圧縮空気製造設備（移動式）更新
高梁市消防署 西分駐所開所（平成19年4月1日）
高規格救急自動車（トヨタ 2,700cc）更新（2Bを更新）西分駐所配備 計3台
消防無線前進基地局整備（西分駐所）
日本消防協会特別表彰 まとい 受章
女性消防団員入団（25名）
高梁分団第2部器庫 移設 高梁方面隊
救急救命士資格取得、1名（計11名）
認定救急救命士（気管挿管）取得 1名（計4名）
救急救命士（薬剤投与）取得 2名

平成20年 職員5名退職・5名採用 実員64名
4月1日高機能消防通信指令運用開始
救急救命士資格取得、1名（計12名）
救急救命士（薬剤投与）取得、3名（計5名）
災害対応特殊化学消防ポンプ自動車 更新 消防署配備
小型動力ポンプ付積載車 更新 高梁方面隊 巨瀬分団第1部
小型動力ポンプ積載車 3台更新 高梁方面隊 中井分団第3部
成羽方面隊 成羽分団第2部・第3部

平成21年 職員7名退職・5名採用・市長部局から1名出向

(消防長 副市長兼務 4月～9月) (消防長 副市長兼務を解く 10月～)
実員 63名

救急救命士資格取得、1名 (計13名)

認定救急救命士 (気管挿管) 取得、1名 (計5名)

救急救命士 (薬剤投与) 取得、3名 (計8名)

小型動力ポンプ付積載車 更新 有漢方面隊 有漢中央分団第1自動車部
(日本消防協会寄贈)

小型動力ポンプ積載車 3台更新 高梁方面隊 高梁分団第2部
松原分団第1部・落合分団第3部

消防ポンプ自動車 (CD-I型) 更新 川上方面隊 自動車分団

平成22年 職員1名採用 実員64名

消防ポンプ自動車 (消防2号車) 更新 消防署配備

高規格救急自動車 (トヨタ 2,700cc) 更新 (2Bを更新) 計4台

認定救急救命士 (気管挿管) 取得、2名 (計7名)

認定救急救命士 (薬剤投与) 取得、2名 (計10名)

中国四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練参加 (救急隊1隊)
(高知市東部総合運動場多目的広場)

小型動力ポンプ付積載車 更新 高梁方面隊 高倉分団第1部

小型動力ポンプ積載車 3台更新 高梁方面隊 川面分団第1部
中井分団第1部・巨瀬分団第2部

消防ポンプ自動車 (CD-I型) 更新 有漢方面隊
有漢中央分団第2自動車部

平成23年 職員1名採用 実員65名

指揮1号車 更新 消防署配備

東日本大震災に伴い緊急消防援助隊岡山県隊として13隊36名派遣
する。

救急救命士資格取得1名 (計14名)

認定救急救命士 (気管挿管) 取得、2名 (計9名)

認定救急救命士 (薬剤投与) 取得、2名 (計12名)

中国四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練視察 (福山市)
はしご付き消防ポンプ自動車 (15メートル級) オーバーホール

平成24年 職員2名退職・2名採用 実員65名

市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向

指揮3号車 (衛星通信車) 消防署配備 (広報1号車を更新)

高規格救急車 (救急1号車) 更新 消防署配備 (JA共済連寄贈)

救急救命士資格取得、1名 (計15名)

認定救急救命士 (気管挿管) 取得、2名 (計11名)

認定救急救命士（薬剤投与）取得、1名（計13名）
大規模水害特別防災訓練の実施
消防救急デジタル無線整備
小型動力ポンプ付積載車4台更新 中井分団第2部、有漢東分団第1・3部
吹屋分団第1部
小型動力ポンプ積載車6台更新 高梁分団第1・3・4部、川面分団第2部
落合分団第2部、有漢西分団第1部

平成25年 職員1名退職・3名採用 実員67名
4月1日消防救急デジタル無線運用開始
岡山県消防防災航空センターへ隊員1名を派遣する。
市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向
救急救命士資格取得、1名（16名）
認定救急救命士（気管挿管）取得、2名（計13名）
認定救急救命士（薬剤投与）取得、1名（計14名）
小型動力ポンプ積載車7台更新
（津川分団第2部、巨瀬分団第1部、宇治分団第1部、落合分団第1部）
（吹屋分団第2部、平川分団第1部、湯野分団第2部）
小型動力ポンプ7台更新
（高梁分団第2部、川面分団第2部、巨瀬分団第1部、成羽分団第5部）
（中分団第2部、吹屋分団第2部、平川分団第1部）

平成26年 岡山県消防防災航空センターへ隊員1名を派遣の継続
市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向
救急救命士資格取得、1名（17名）
認定救急救命士（気管挿管）取得、1名（計14名）
認定救急救命士（薬剤投与）取得、1名（計15名）
認定救急救命士（ブドウ糖溶液の投与・血糖測定）取得、2名（計2名）
指揮2号車（救助資機材搭載型車両）総務省消防庁無償貸し付け
救急2号車 2B型更新 西分駐所配備
大規模水害特別防災訓練の実施
広島市土砂災害に伴い緊急消防援助隊岡山県隊として5隊25名派遣する。
中国四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練参加（消火隊1隊・救急隊1隊）
小型動力ポンプ積載車3台更新
（玉川分団第1部、落合分団第1部、富家分団第3部）
小型動力ポンプ3台更新
（津川分団第1部、成羽分団第6部、富家分団第3部）

平成27年 職員3名退職（救急救命士取得者1名含む）・3名採用 実員67名
岡山県消防防災航空センターへ隊員1名を派遣の継続

市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向
救急救命士資格取得、1名（現17名）
認定救急救命士（気管挿管）取得、1名（計15名）
認定救急救命士（薬剤投与）取得、1名（計16名）
認定救急救命士（ブドウ糖溶液の投与・血糖測定）取得、3名（計5名）
資機材搬送車更新 消防署配備
小型動力ポンプ積載車6台更新
（高梁分団第4部、松原分団第2部、成羽分団第1部、手荘分団第2部）
（富家分団第2部、湯野分団第3部）
小型動力ポンプ8台更新
（高梁分団第4部、落合分団第1部、成羽分団第1部、手荘分団第4部）
（大賀分団第2部、富家分団第2部、湯野分団第2部3部）

平成28年 岡山県消防防災航空センターへ隊員1名を派遣の継続
市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向
救急救命士資格取得、1名（18名）
認定救急救命士（気管挿管）取得、1名（計16名）
認定救急救命士（薬剤投与）取得、1名（計17名）
認定救急救命士（ブドウ糖溶液の投与・血糖測定）取得、6名（計11名）
救助工作車更新 消防署配備
大規模水害特別防災訓練の実施
熊本地震に伴い緊急消防援助隊岡山県隊として6隊18名派遣する。
小型動力ポンプ積載車3台更新
（富家分団第1部、平川分団第1部、湯野分団第1部）
小型動力ポンプ6台更新
（玉川分団第1部、宇治分団第1部、成羽分団第4部、富家分団第1部）
（平川分団第1部、湯野分団第1部）

平成29年 職員2名退職・5名採用 実員68名
市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向
機構改革の一部改正により、消防本部予防課を新設した。
救急救命士資格取得、1名（19名）
認定救急救命士（気管挿管）取得、1名（計17名）
認定救急救命士（薬剤投与）取得、1名（計18名）
認定救急救命士（ブドウ糖溶液の投与・血糖測定）取得、5名（計16名）
ブーム付多目的消防ポンプ自動車 消防署配備（はしご車を更新）
小型動力ポンプ積載車（積載2号車）更新 消防署配備
小型動力ポンプ積載車7台更新
（中分団第1部、手荘分団第1部・3部・4部、大賀分団第1部・2部
高山分団第1部）

小型動力ポンプ4台更新

(巨瀬分団第2部、落合分団第1部、手荘分団第3部、高山分団第1部)

平成30年 職員2名退職・3名採用 実員69名

市長部局と人事交流 市長部局へ1名出向・市長部局から1名出向

救急救命士資格取得1名(20名) 取得者2名採用(22名) 退職1名(21)

認定救急救命士(気管挿管)取得、1名(計18名)

認定救急救命士(薬剤投与)取得、1名(計19名)

認定救急救命士(ブドウ糖溶液の投与・血糖測定)取得、1名(計17名)

大規模水害特別訓練を実施した。

平成30年7月豪雨による災害に対し、市民の避難誘導及び救出作業等に
従事した。また、県内応援隊として倉敷市真備地区へ3日間で3隊10名
の職員を派遣した。

救急3号車更新 消防署配備

高機能消防指令施設の部分改修を実施した。

小型動力ポンプ積載車1台更新

(成羽分団4部)

小型動力ポンプ軽四積載車1台更新

(備中分団富家1部)

小型動力ポンプ3台更新

(高梁分団4部、松原分団1部、備中分団富家1部)

2 消防本部・署庁舎

名 称 高梁市消防本部・高梁市消防署

所 在 地 〒716-0046 岡山県高梁市横町1693番地1

T E L (0866) 21-0119 F A X (0866) 21-0130

位 置 北緯 34度47分 東経 133度37分

敷地面積 1,034.1 m²

年月日		区 分	建築面積 (m ²)	延 面 積 (m ²)	構 造
建築年月日	昭和46年3月31日		545.17	1,220.88	鉄筋コンクリート造 3階建
増築年月日	昭和59年9月21日		141.98	401.60	鉄骨造3階建
	平成7年11月10日		9.92	9.92	鉄骨造
計			697.07	1,632.40	

(1) 分駐所

名 称 高梁市消防署 西分駐所

所 在 地 〒716-0304 岡山県高梁市備中町布賀29番地2

T E L (0866) 45-9909 F A X (0866) 45-9910

位 置 北緯 34度47分 東経 133度27分

年月日		区 分	建築面積 (m ²)	延 面 積 (m ²)	構 造
建築年月日	平成19年3月22日		189.05	189.05	鉄骨造瓦葺平屋建

3 世帯数・人口・面積

平成31年4月1日現在

	世 帯 数	人 口	面積 (Km ²)	備 考 (外国人)
計	14,411	30,374	546.99	848

4 消防力の整備指針に関する基準数と現有数

(平成31年4月1日現在)

区 分		基 準 数	現 有 数
署 所 の 数		2	2
計		14	18
消 防 ポ ン プ 自 動 車		3	3
救 急 自 動 車		3	4
ブーム付き多目的消防ポンプ自動車		1	1
化学消防ポンプ自動車		1	1
救 助 工 作 車		1	1
小型動力ポンプ付積載車		1	2
水 槽 車		1	1
資 機 材 搬 送 車		1	1
広 報 車		1	1
指 揮 車		1	3
計		104	67 64.4%
消 防 職 員	警 防 要 員 等	84	43
	救 急 隊 員	兼務	兼務
	指 揮 隊 員	兼務	6
	予 防 要 員	6	5
	通 信 要 員	6	6
	庶務処理等の職員	8	7

5 現有消防力の比較

(平成31年4月1日現在)

世帯数・人口・面積	世 帯 数	人 口	面 積(km ²)
	区 分	14,411	30,374
消防職員1人当り	215	453	8.16
消防車1台当り	801	1,687	30.39